

## ■私の意見

# 新しく変った里親制度と ガイドブックの出版

橋本 明

(社団法人家庭養護促進協会事務局長)



## 里親制度が新しくなった二つの理由

一昨年の十月に里親制度が新しく変りました。改正の柱は虐待を受けた子どもたちを養育する「専門里親」が創設されたことです。

制度改正の背景には主に二つの理由があるように思われます。

第一は、この五、六年の間に虐待等により乳児院や児童養護施設に入所する子どもたちが急増し、施設がいっぱいになっており、これ以上入所の必要な子供たちが増えると施設では受け入れられなくなるため、里親を受け皿として活用しようと考えられたこと。

第二は、集団の施設だけで虐待など、困難な問題をかかえる子どもたちを支えるには限界があり、もっときめ細かく個別に関わる里親が必要と考えられてきたこと等です。

## ガイドブックを出版しました

協会では十五年度の独立行政法人福祉医療機構の助成金(子育て基金)を受けて「里親が知っておきたい36の知識・法律から子育ての悩みまで」を二千部出版しました。

一年前から「里親養育マニュアル検討委員会(委員長/関西学院大学教授芝野松次郎)」を設けて内容を検討し、九人で分担執筆いたしました。

この本の特徴は二つあります。

一つは、里親とこれから子どもを迎えたいと考えている里親希望者が何を知らたいのかをアンケート調査し、その結果を「関心度レベル」として三段階に分け、それぞれ36の項目に星印と太陽のマークを印していること。したがって読者は、関心度の高い項目をまず選んで読んでみる、という読み方もできます。

もう一つは、協会の里親を求める愛の手運動を通して里親に迎えられ、成長して大人になった子どもたちからの貴重なメッセージが随所に散りばめられていることです。

協会では子育て基金とは別に千部増刷しましたので、ご希望の方には一冊千円(送料百六十円)で購入していただけます。

お問い合わせは協会(☎078-1341-5046へ)。海文堂書店・ジュンク堂三宮店でもご購入いただけます。

■ ポエム・ド・コウベ 車中偶成

詩 竹中 郁

画 小磯 良平

わが乗る阪急電車の窓ちかく

山々せまり岡本の里のあたりを疾駆す。

木々の芽立ち美しく

たまゆら男女なんにょの客の頬染めぬ。

不図 感ず、わが肩の上の軽き重みを、

吾に添ひて稚き中学生の居あ睡るなり。

一日の学業に疲れたるにや、

生毛やはらかき口元ややあけて

あどけなく睡る。

—— 嘗て吾にもありしこの年ごろ。

—— 嘗て吾にもありしその紅あけの頬。

電車ひた走る、

過ぎし日のごとく

電車ひた走る。

わが腕<sup>かひな</sup>わが肩をつたひて  
汝<sup>なれ</sup>が血気と夢とかよひ来る。  
わが身ぬちに次々と甦るかの耀きの若き日。

しかるに 惜しや、  
電車は迂り込む神戸終点。

(詩集『龍骨』から)



少女像 昭和54年作  
神戸市立小磯記念美術館蔵

# 神戸のこと 手当り次第

淀川長治  
え・中 西 勝

一九六三年六月号掲載



衆楽館のことを書いたので、小学校の友達が新開地の写真を撮って送ってくださった。見ると思いもかけぬ変りよう。

すぐ目の前に「赤まむ、坂本」。相生座はスバル座。洋食、中華ぜんざい、紳士服専門店。演芸の松竹座。ダンゼン愉快的な松竹映画みんなでなくそう迷惑行為。どんな小さな被害でも今すぐその手で一一〇番。

浅草と千日前と兵庫をだしにしたしっぽくうどんだってもすこし上品になろう。ケツネうどんをラーメンに混ぜてもっと味があろう。新開地もえらい田舎になったものである。

そう思って、こしかた古い新開地をしたのでみた。すると、やっぱり田舎くさかった。けれどもその田舎くささには風情があった。ナボリの民謡のごとき野趣人情があった。と思うのは古きアルバムへの懐郷美化とでも云うのであろうか。

X

扇風機だってまだ使わなかったころの新開地。二階の正面一等席の畳敷きのざぶとんに横にじりに坐る。その一等席のズーとはしにお茶子（案内嬢たいがいオバハン）が入れかわりべったり坐って細

いロープの天井から吊られたものをグイグイまたグイグイと、これを一時間交たいくらいで手で曳いている。つまりこれが扇風だった。天井には一メートルに二帖をきくらいに白いカーテンがすそを波にしぼって吊られている。この正面に向って縦の何枚かのカーテンがお茶子のグイグイのたびに音なく左右にゆれ動き、そのカーテンからのそよ風が、客席におくるやわらかな風。

ラムネはまだしも……ミカン水はひどく叱られた。ひやしあめ……これもいけない。みんな汚いキルクのつめでキユツとびん詰めされているからだ。その、ひやしあめ……映画館の表に出ると、大きな石けん箱二つくらい氷の上に、この、ひやしあめのピンを、じかにずらりと置いて「エーあまいのどうだす、ひやっこい……ひやっこい、どうだす」。売り子のおっさんは、そう呼ぶだけでなく両手でガチャガチャとそのピン十五本ばかりを撫でてころがす。

それで氷の上にピンの凹みができて、あめ色のピンの中の液体がまるで冷えきって見えて。思えば今どころではないその田舎風情。

×

そう云えば自動車もまだ通らない西柳原の、今にして思えば兵庫駅ちかい汽車の踏切り口からたてに一本通ったその通りもススけた田舎道であったであろうに、宵の打ち水でしっとり静まったその表に一軒一軒がまるできまったように夏の夜の八時ごろともなると床几(しょうぎ)に寝椅子を持ち出して、それが向う両のきなみずずり並んで五十軒ばかり、円扇片手に十一時を過ぎてもまだしゃべるアイスクリーン、アイスクリーンが通る。あまーざけ、あまーざけが通る。紅地に白ぼたんの看板に灯を入れたチョンマゲのおっさんのうどんの荷車がくる。この爺さん大正も終りにまだ固意地のチョンマゲ。この白ぼたんが十一時すぎ。それでめいめいが床几を家にしまいこんで、げんかんの、かんぬきをさす。テレビもないころの夏の夜のその懐しさ。

×

盆は旧になる。太鼓念仏が十人あまり毎年のように、どこから来るのかやってくる。手あかで黒光りしたような小さな太鼓を前に仏

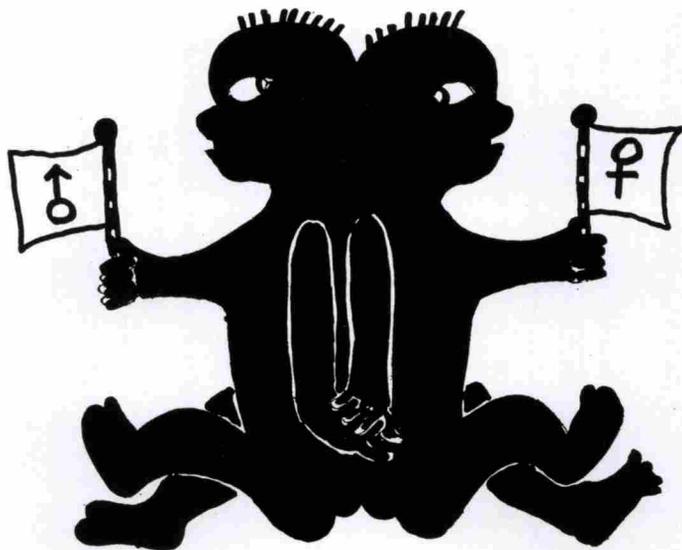
壇の前に二列に向き合って並ぶ。ひといき唱えた念仏のあと、一人  
がうなる如く声をしぼって中腰に太鼓を叩きだす。叩くというより  
も小さな棒のさきで撫で、そのかすかなリズムにしたがって、やが  
てみんなが叩きだし、向いあったリーダー二人が中腰から立ちの形  
となって踊り叩く、そのすさまじい祈りとリズムの饗宴はアフリカ  
のブードー・リズムそのままに小さな私の魂をゆきさぶって。終ると  
みんなもとの、オバンとオジンに姿が戻って三角に切った西瓜やコ  
ップに盛った冷や酒呑んで「へー、ををきにゴツツオハン」と次の  
家さし移ってゆく。

×

盆と前後して井戸がえがくる。素肌すだに腹かけの地下足袋。そのい  
れずみを見るのが好きだった。三人が井戸のふちに立ち中の一人が  
底へ下ろしたロープの先きのざるに底の砂利とごみをすくう。三人  
がかわるがわる曳き上げてクシやナイフやエンピツを砂利の中から  
つまみ出し「ぼん、こんなんほりこんだらワヤやがな」。みんない  
い土方衆どかたしゅう。髭が痛たそういたなその男がキューッと口を鳴らしてコップ  
酒を立ち飲みしているのを見るのが私はまた好きだった。

×

海水浴にゆくときは石原の薬屋で小さなビンのいちごエッセンス  
を買いさらしのきんちやくに、ほして固くしたそら豆をいっぱい。エ  
ッセンスは須磨に着くまえすでになめつくし汽車の窓から、それも  
欽橋になるのを待って、はるか下にポーンがチャン。豆は腰にむす  
んで泳いで塩けの水でふんわり柔らいたところで喰べる。ちどりの  
浮き袋という鳥のかたちの浮きでパチャパチャやって、やがて夏雲  
がトマト色になり、松なみ木の月見草がひらきだし、海ぜんたいが  
鏡のよう静まった夕なぎのころ、きまったように外人が白と赤のポ  
ートを持ち出して泳ぎにくる。青い目の金髪の小さな男の子が笑い  
かけてくる。そんなころ私はもう家に帰らねばならぬとは残念でこ  
れも、あれも、みんな神戸、いや兵庫というべきであろうが、その  
思い出がいまの一九六三年を四〇年も一気に逆戻りさせ、同じ田舎  
風情でも、味（あじ）があったなあ……と懐しい。（映画評論家）



むかしギリシヤのプラトーンという学者は、何故人間に性のちがいがあって、男と女は何故こうも熱烈にもとめあうのかと考えぬいたあげくついに考えだしたのがつぎの説明である。「人間は、もともとオス、メス同体で、男と女は一つ体にくっついていて、頭も胴もまるくて、手足はどちらも二対で四本ずつ、二つのおなじような顔が頭の両側にあつて、耳が四つ、その他の器官もそれに準じてそれぞれ二組ずつあつた。そして力が強く、知恵もあつたので、なかなか神のいいなりにならず、むしろことごとくに神に突っかかって反抗した。ついには神たちを攻撃して昇天しようとたくらんだのである。そこで、たまりかねた神たちは、そのいましめの処分をゼウスの神に一任することになった。そのとき、ゼウスの神が考えるには、やつらを殺すのかわいそうだが、今のようになつてはこまる。それにはやつらは半分に裂いて、一人一人に切りはなす。そうすれば二本足となつて今よりはずつと弱くはなろうが、数がふえるから、やつらにもつごうがよかるう。それでもまだ無礼をはたらくようなら、もういっぺん切りはなしてやる。そうすればやつらは一本足でビョンビョンとんで歩くようになるだろう。こうして人間は二つに切りはなされた。それをいたわしく思ったのが医術の神アポロで、切りはなされた半分ずつを、べつべつに縫いつくろつてやつたのであるが、せめてもの情けから、裂かれた半分がおたがい相手の半分を見ることができるよう、その首をねじまげてやつた。こうして人間に男と女ができたのであるが、それらしい男も女も失つた半身を求めてたがいによりそうのである」とプラトーンはなかなか人を食つた味のある説明をしている。いかがかな？

## 紳士入門 ⑧

How to be a gentleman

## 読書紳士

文竹田 洋太郎  
え 鴨 居 玲

かつて中国では知識人、学者、紳士といった人には「読書人」という言葉が与えられた。英語でも、よい教育を受け知識の豊かな人を Well-read man といった。これより見ても、読書をするのは紳士の要件であるといつてよい。「読書の秋」といわれる。紳士諸君は秋の夜長を大いに読書にはげまされたい。

しかしたびたび述べているように、紳士には紳士としての態度、この場合は紳士としての読書が要求される。紳士の読書を説明する前に、非紳士の読書の例を挙げるから、自戒の資とすべきであろう。

## ▲非紳士読書の例▼

A 某会社の社長は「経営者必読の書」といわれた山岡荘八著「徳川家康」を寸暇を惜んで読もうとした。そのため通勤の自動車の中にまで本を持ち込み、会社に到着すると本を座席の後に置いたまま社長室にあがった。

B ある社長は「流通革命」の声におびえたせいか、出入りの書店の従業員に「流通革命」という言葉が表紙に書いてある、あらゆる本は持つてくるように、と命じた。

C ある若い部長は松本清張の著書を愛読している。

例を挙げればキリがないが、ここで紳士の読書におけ

る Don't (してはいけない) を挙げてみよう。

一、ベストセラーは絶対読まぬこと。

一、経営、処生などに直接有益な書は読まぬこと。少くとも人前で読まぬこと。

一、出世しようとする人間や、出世の見込みのない人間が読みそうな本は読まぬこと。(紳士はすでに出世しているのだから。この点については他の機会に述べる) つまり「銭形平次」は読んでもいいが、松本清張は読むべきでない。

一、要するに、できるだけ本を読まないことである。そこで「読書人はなぜ本を読んではいけないか」という疑問をもつむきもあると思う。これは、かつて「読書術」を著された加藤周一氏もいっておるように「真の読書人は、何を読むべきか、ではなく、何を読まないでますか、を知っている人」なのである。単に人が評判にしているとか、よく売れているとか、役に立つだろうとかの理由で貴重な時間をつまらない本に費すことは、紳士でなくても、人間として大きな損失となることは明々白々であろう。

ここでわれわれは、本をできるだけ読まずに、いかにして読書人たり得るかを考えねばならない。

読書の目的は知識を豊かにし、自己の精神を高め、人の弱味につけこみ、やつついたり、イジワルをしたりすることにあり。その目的にそった読書、もしくは蔵書をし

## 「紳士入門別冊図解」

「やあ近ごろこんなものを読みか  
えしているんだよ。アハハ……」



楽しむことこそ紳士のとるべき生活態度である。以下その実例を挙げるから、適宜応用されたい。

A 社長室の書棚には人事興信録や社史、業界史等の大冊が置かれているが、これらすべては文書課や秘書課の戸棚に移動し、あとにマルクスの資本論、毛沢東全集劉少奇選集、それも古本屋で買ってきた手あかのついたものを入れること。(毛沢東全集はケネディ米大統領の愛読書であり航空幕僚長松田武空将の書棚を占領している)

そこへ来たお客が妙な顔をすれば、照れた顔つきで「ダス・カピタルを読もうとしてドイツ語を勉強したものだ、学ついに成らずだね」という。客は感心する組合の執行委員長は「こいつは手ごわい」と思う。業界

紙が人物紹介を書くとき「麥り種」とほめてくれる。そして右翼系の人物がくれば「ます敵を知れだよ」とうそぶく。

B あなたの机の上には、これも手あかによごれたケインズの「雇傭、利子及び貨幣の一般理論」をそれとなく置いておく。その他「置く本」として推賞するのはゲーテ「ファウスト」「源氏物語」(もちろん原文)、マックス・ウェーバー「プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神」「杜甫詩集」——人にならずねられたら「近ごろこんなものを読みかえしてるんだが」という。

また雑誌「平凡」「明星」「マドモアゼル」などを置き「若い人たちの気持ちを知らなくっちゃ」という。置いてはならない本||ゴルフ、囲碁に関するもの、(これらはひそかに読むもの)ヌード写真集(上に同じ)



林 敏之（はやし としゆき）  
1960年2月8日徳島生まれ。徳島県立城北高校から同志社大学を経て神戸製鋼所へ。元ラグビー日本代表。日本代表を13年間務め、代表キャップ38。神戸製鋼の7年連続日本一にも貢献。1990年、オックスフォード大学留学中にケンブリッジ大学とのパーシティー・マッチに出場し、ブルーの称号を獲得。現在は神鋼ヒューマンクリエイトに在籍し、感性教育をテーマに活動中。

<http://www.t-hayashi.jp/>

## 新連載 林敏之のヒューマン対談 第4回

# 妹尾武さんと語る 『人の出逢い、そして詩』

林 神戸は音楽に親しみやすいまちですよ。妹尾くんは、69年、生まれは芦屋ですよ。ピアノは小学校の頃からはじめたそうですが、きっかけは何だったのですか？

妹尾 もともと両親が音楽が好きで常に家では何かしら音が鳴ってましたね、それでたまたま家にあっただオルガンで聞こえて来る音に合わせて自分なりに手探りで遊んだりしてました。

林 僕も小さい頃は、オルガン教室に行っていたね。ピアノを続けてきたのは、いい先生との出逢いがあったのかな。

妹尾 習っていた先生は「これやりなさい、次はこ

れ。」みたいな押しつけがなく、自分の良いところを引き延ばしてくれた気がします。ピアノだけじゃなくその頃から曲書いたりしてましたから、それも持って行って聴いてもらったりしてましたね。

林 中学から甲南ですよ。ピアノを本格的にやり始めたのはその頃から？

妹尾 そうですね。やってるうちにどんどん面白くなってきて、弾きたかった曲を制覇できた瞬間が「やったー！」って感じで。それを繰り返していくうちに、のめり込んでいったような感じですね。

林 普通は課題曲を与えられて、「練習しなさい」と言われると嫌になってきますよね。



妹尾 武(せのお たけし)

1996年、シンク シンク インテグラル所属。2002年、日音アーティスト所属。小学生の頃からピアノを習い始め、同時に作曲を始める。以降、クラシックを中心に音楽活動を展開。1984年、大塚フィルハーモニーと「Rhapsody in blue」を共演。その後、平吉 毅州氏に出会い作曲を専攻。高校の頃からBilly Joelをきっかけに様々なジャンルの音楽を聴くようになり、大学生の頃から作曲制作を本格的に開始する。1994年に作曲した作品「So Heavenly」が種野精臣選曲・監修のコンピレーションアルバム「ecole」(EPIC SONY)にSenoo名義で収録されたのを機に、プロとしての音楽活動を開始(同作品はフジテレビ系深夜番組「かしこ(監督:片岡K)」のオープニングテーマに起用された)。以降、ゴスペラズ、高橋真梨子、Lyrico、A.JI、SOUL LOVERSといったアーティストのレコーディングやライブセッションに参加。また、ゴスペラズ「永遠に」(Ki/oon Records)、高橋真梨子「枯れない花」(Victor)、「Lyrical Eternity」(キセキノハチ) (SONY Records)、A.JI「DAY OF LIGHTS」(EPIC Records)をはじめ、作曲家・作詞家としても様々なアーティストに楽曲提供をしている。

妹尾 僕も嫌でしたね。そういう意味じゃ独学に近いですよ。課題を弾くよりは、耳で聴いた音楽をコピーしていた方が多かったですね。歌謡曲からクラシックまで節操なく弾いていましたね(笑)。

林 僕も中3の時にギターを買ってもらったんですよ。ちょうどフォーク世代で、吉田拓郎や井上陽水なんかが格好良かった。友達にギターを弾ける奴がいて、僕もやりたいと思ってね。みんなの前でコンサートやれたら格好いいなと思ってた。ほとんど独学でやったんだけど、僕はあまり研究熱心じゃあないんで、あんまり上手くなりませんでしたね(笑)。とりあえずコードを鳴らして唄っていられば良かった。どちらかと言えば唄う方が好きでしたね。中学校と毎日一時間は弾いていましたね。大阪フェイェルハーモニーと共演をしたのはいつ頃のことですか。

妹尾 14歳の時ですね。ちょうどシンフォニーホールができたばかりの頃で、「あんなところで弾けたらいいなあ」と思っていたら、本当に1週間位してその話が来て、あれはびっくりしましたね。当時の先生が話を持ってきてくれましたね。あれは本当に楽しかったし、いい勉強になりましたね。学校の先生や友達が差し入れ持ってきてくれて、今でも最高の思い出です。

林 音楽をプロになってやっていくと決めたのは、

いつ頃からですか。

妹尾 高校卒業するぎりぎりぐらいですね、土壇場にならないと決断できないタイプなんで(笑)。

一度、帰宅部が嫌になってピアノと一定距離を置きたくなった時期があったんです。まあいわゆる愛情の裏返してやっすか(笑)。もって友達と一緒にいたい、そして同じものを分かち合いたいと思いはじめると止まらなくて、勢いで陸上ホッケー部に入部しました。ちゃんと最後まで続けましたよ。インスターハイにも行けたし、補欠でしたけど(笑)。

同じゴールを目指して、ピアノだけでは得ることの出来ないものを手に入れて、とにかく「妹尾武」のベーシック(ベース?ベーシックでいいのかな)を創りたかった。それはいい経験になりましたね。ピアノは物理的には個人競技ですから。部活などで、青春を謳歌しなければ、音楽的にもつまらなくなってしまうという不安が、自分のなかで漠然とあったのでしょね。それに僕は作曲家としてもやってきたかったのでなおさらだと思っただす。

まあそれでもひとりで風景を見ながら、空想に耽るような時間では、相変わらず好きでしたけど(笑)。

林 僕も一人っ子でしたが、どちらかという寂しがり屋でした。ひとりであるのはあまり好きじゃ

なかった。高校時代には、進路について色々と考えたとと思うけど、桐朋音大に決めた決め手はなんでしたか。

**妹尾** 「単純に東京に行きたかった」っていうのは半分冗談で、甲南でそのまますか。このまま行っちゃダメだということ、僕のなかでは最終目標はやはり

「音楽」だったので、一流と言われるところで己の力を試したかった。ただ音大まで行っちゃおうともう後戻りできないので危険な賭けだったと思うのですが、当時は変な自信がありましたね、受かるかどうかも解らないのに卒業したら東京行くんだ〜みたいな(笑)。ピアノの師匠は呆れましたよ。普通は音大に行く子などは夏期講習や東京の先生に師事にいったりと、何かとお金がかかるんですよ。僕はそころ六甲アイランドで大学生に混じってホッケーの試合してましたから(笑)。

**林** 当時の無謀さはどこから来ていたのでしょうかね。とてつもない自信が湧いてくるときというのはあるよね。そういうときは思うようになるね。

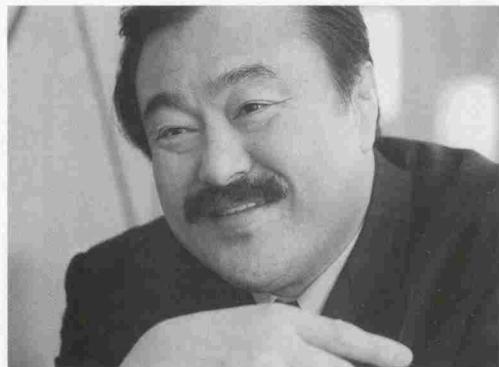
**妹尾** そうですね、そういうときは自分以外の不思議な力を感じますね。

**林** よくご両親は応援してくれましたね。

**妹尾** 受験に行くまでは、「勝手にしろ」ぐらいのものだったと思うのです。ホッケーやって疲れてピアノちょろちょろって弾いて寝てましたからね(笑)。ただ部活引退してから最後の追い込みは凄かったですよ、たぶん。

**林** 音大に行くことを決めたときには、具体的な将来像や、夢などはあったのですか。

**妹尾** 漠然としています、どこか街はずれの喫茶店で自分が創った曲が流れたりしたら最高だなあと



思っていましたね。

**林** ピアノって、ものすごく幅の広い楽器だと思っただけです。

**妹尾** 持ち運びは不便ですけどね(笑)。

**林** 大学時代はどんな感じでしたか。

**妹尾** 貧乏生活でした(笑)。本当にやばい時期もありましたよ。僕は最初からクラシックの道に進む意志はなくて、でも基礎だけは勉強しておこうと思っただけです。バイトも劇の横やディナーショーでピアノを弾いたりスバゲッティ屋で働いたりいろいろやりましたね。学校にそういうバイト紹介の掲示板があったんです。とにかく女だらけの環境でした(笑)。男子校からいきなり変な女子校に放り込まれたようなものですからある意味結構辛かったですね。神戸辺りの女子高のクオリティの素晴らしさを改めて体感しました(笑)。殆ど他の大学生と遊んでましたね。

**林** ピアノ科に男子生徒はどれぐらいいるものなの？

**妹尾** 1学年に4、5人ですよ。環境的には、大学というよりは専門学校でした。部活も音楽しかありませんでした。管楽器などはオーケストラです。先輩後輩和気あいあいな感じでしたね、自意識過剰軍団みたいな(笑)。なんとか卒業して数年後に、ソニーのオーディションに受かったんです。それがコンペレーション・アルバムとしてCDになったのですが、発売日が忘れもしない地震の年の1月21日だったんです。24歳の時ですね。いったん引き上げて神戸に帰ろうかと思ったのですが、今やらなきゃチャンスが逃げると思ってしばらくして東京に戻りました。

**林** そのオーディションに選ばれた人ばかりでアル



(右) 追憶の季節を旅する美しくおやかなピアノ・アルバム。妹尾武からのSeasons Greetings。四季をテーマに唱歌・POPSの名曲を美しく繊細なアレンジでカバーしたコンセプトアルバム。  
¥2,500 (w/tax)  
(左) 「A HAPPY DAY」唄・森岡交隆 林俊之 妹尾武氏とのコラボレーションCD  
¥1,000 10名様にサイン入りCDをプレゼント (宛先 P122参照)

バムをつくり、はじめて自分の曲が収録されたわけですよ。それがきっかけでプロになったと聞いたけど、それまでもプロへの道は歩いてたんでしょ。

**妹尾** でも危険な橋でしたよ。そのオーディションがなければいまの僕があったかどうかわからないです。

**林** そこできっかけをつかめたことは大きな自信になったんでしょうね。

**妹尾** それはそうなんです、発売日前に地震がありましたから、それどころではなくなっちゃってしまい、すぐに芹屋に戻ってきたんです。僕の宣伝部長のようなどきごとをしてくれていた、親友の同級生が地震で遊びに行っちゃったんです。直前の正月も古い屋敷に住んでいたのですが、築100年以上の古い屋敷に住んでいたのですが、冗談で「大地震なんて来たら、一発でつぶれるなあ」などと言っていた矢先だったんですよ。その年は、ほぼ毎日朝まで呑んだくれてましたね、帰り道「出てこんかあ!」とか叫びながら。林 デビューは果たしたものの、嬉しいような悲し

いような複雑な年だったみたいですね。

**妹尾** そうですね、かなり跡ひきましたね。それでもそのCDをきっかけにいくつかオファーをいただいて何とか立ち直った頃に、収録された「SO HEAVENLY」という曲がフジテレビの深夜番組のテーマ曲に採用されたのです。

**林** フリーから事務所所属するに至ったのは、どういうことがあったのかな。

**妹尾** ひとりではなかなか仕事もたれないし、著作権のこととか解らないことだらけだったので、僕がある程度音楽に専念できる環境を作っていたら、事務的なことを会社に管理してもらおうようにしたのです。ほちほち名指して仕事を頂けるようになってきた頃でした。

**林** ゴスペラーズのメンバーたちと出逢ったのは、いつ頃なのかな。

**妹尾** 27か28歳の頃ですね。メロディーを楽譜に直して、コーラスのアレンジを考えてくれる人を探してほしいという依頼があったのです。面白そうだから是非やらせてくださいと言ったのがきっかけで、そこで初めて出逢って一緒に作業していくことになったのです。ペーサーポールの北山くんが、クラシックやピアノが好きで、一緒に遊びに行くようになったりして。気がつけば音楽的にも人間的にも意気投合してました。きつと縁があったんでしょうね。

**林** ラグビーはいつ頃から観るようになったの？

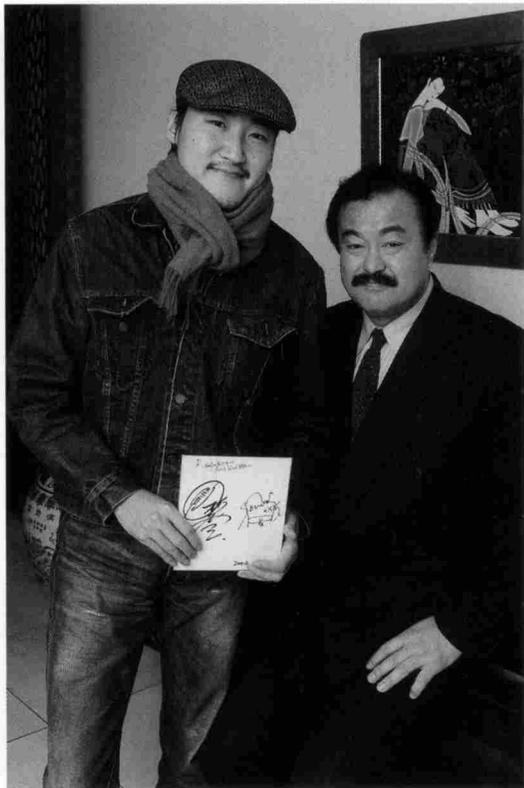
**妹尾** 大学にいた頃からですね。たぶん関西より関東の方がラグビー人気があったと思うんですよ。

スポーツは全般的に観るのは好きですよ。でも大學生の頃は神戸製鋼が強かったこともあって、冬になると必ず秩父宮に足を運んでましたね。何しろ防具もなしで立ち向かって行きますからね。よっぽど好きじゃないと続かないと思いますよ。特に社会人の方はそれで食べて行けるわけじゃないし。飾らない雰囲気が好きいいですね。ゴールに向かって遮る無二突っ走る感じを自分と照らし合わせたりして。本当にたくさんパワーをもらいました。

**林** それじゃあ、ラグビーを観だした頃には、神戸製鋼はチャンピオンだったんだね。

**妹尾** そうですね。当時、林さん、大八木さん、平尾さんとラグビー界の少年隊でしたから(笑)。

とにかくラグビーはストイックな感じがしましたね。林さんなんかしょっちゅう自分を殴ってましたからね(笑)。



でももらった。そのシーズンを最後に引退して、一年後に本を出版しました。妹尾くんとの出逢いは、本を読んでもらったこと、手紙とCDをもらったことだからね。そのときの手紙は僕にとって宝物だよ。手紙の返事に葉書を返し、そのあと電話で喋って、初めて待ち合わせして逢うことになったんだよね。「どんな奴が来るのかな」と思いながら待っていると、ボルサリーノみたいなのをかぶったおっちゃんが出てきて、これは違うなと思ってたらそれが妹尾くんだった(笑)。それで初めて呑んで仲良くなって、音楽の話なんかもしたよね。

妹尾 『永遠に』があればど

皆さんに愛される曲になって、本当に嬉しいです。歌詞の力もあって、結婚式などで使って下さる方も多みたいですよ。林さんもカラオケで良く歌ってくれているみたいだし(笑)。

林 何回目にラグビー仲間達と飲んだ時、同志社大学時代に皆でよく歌ってた「A HAPPY DAY」という歌を唄ったら、「いい歌ですね、CDつくろうよ」という話を盛り上がり、酔っぱらった席の話で終わらせたくなかったので、1年がかりでやっと完成したよね。

妹尾 初めてのレコーディングはどうでした。

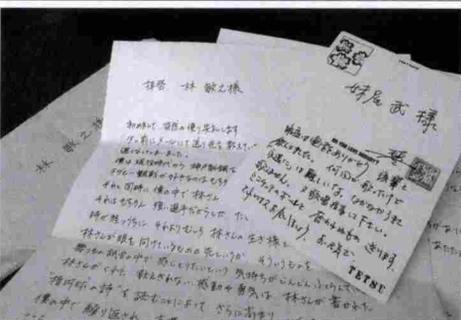
林 楽しかったですよ。妹尾くんは編曲をやってもらって、忙しいなかスタジオで歌を録音して。1年がかりでしたね。完成パーティーの2次会で、最後の最後に、妹尾くんが『永遠に』を、もとの歌詞のラグビーバージョンで唄ってくれたんだよね。妹尾くんは感動したね。録音しておきたかったなあ。妹尾くんは出逢って改めて感じたことだけど、自分のなかにも寡黙さがあり、なかなか言葉として喋れないもどかしさを抱えていた時代もあったんだよ。いまになって思ってみれば、人と接することも多くなるなものを自分のなかには、しまっている時間も大事なことだと思ふんだよ。自分のラグビーにとっても大事なことであり、蓄積されたものがエネルギーになって

林 アマチュアは勝つしかないからね。  
妹尾 普通に会社で働いて、ハードな練習していることを考えると、どんな体力しているのだろうと思ってきました。林さんの本を読んで、やっぱり普通ではないなと思いましたよ(笑)。いい意味ですよ。寮にいらっちゃった頃、熱帯夜で寝付けなくてアスファルトの上で寝たエピソードなんて最高です(笑)。林 当時は寮の部屋にクーラーなんてなくてね。十時を越えたら食堂は閉まるし、風呂は二日に一回だし大変でしたからね。  
妹尾 でも楽しかったのではないですか。満ち足りない快感って後々まで残りますよね。  
林 寮では禁止されていたんだけど、よく鍋をしましたね。よく皆で肉の取り合いをした(笑)。まあ楽しい時代だったね。いまならクーラーなしで生活することも考えられないけどね。暑い夜は、ペラペラで寝てみたり、廊下で寝てみたり。それでも眠れないときは、外のアスファルトだったかな(笑)。その本を出版したのは、現役を引退して一年後くらいかな。膝の手術をしたのが34才の時で、1年間リハビリに費やして、来シーズンこそ公式戦に復帰するぞと思っていた時に、震災があった。ラグランドに山積みされた瓦礫の横を走ってトレドニングしましたね。自宅の隣の神戸高校のグラウンドも走らせ

いたような気がするね。  
妹尾 そんな林さんがいたからこそ『永遠に』が生まれていんなんに愛される曲になったんだと思えます。

林 今後は、どういうことしたいと考えているの？  
妹尾 ゆくゆくは映画のサウンドトラックなどを手がけたいですね。僕はあまり海外旅行に興味がなく

### (手紙全文) 拝啓林様



初めまして、突然のお手紙失礼します。僕は現役時代から、神戸製鋼を応援させてもらっていて、ラグビー観戦が好きなのは勿論なのですが、それと同時に僕のなかに、林さんという人間そのものに興味を持ちはじめました。それは勿論、強い選手だからとか、たくさんのキャップ数とかも含めてですが、時が経つうちに、それよりむしろ林さんの生き様というか、林さんが目を向けているもの、先というかが、そういうもの、いくつもの試合のなかで感じ取りたいという気持ち、とんどもん膨らんでいきました。林さんがくれた数え切れない感動や勇気は、林さんが書かれた『精円球の詩』を読むことよってさらに高まり、いくつものシーンが僕のなかに繰り返されて、言葉では伝えきれないほど心を動かされました。ここらへんで自己紹介させてください。僕は神戸生まれて、仕事は作曲、編曲、演奏をやっております。実家はいまも神戸ですが、僕は東京に在住しております。今回、なぜこのようにCDを贈らせていただいたかと言うと、このなかのゴズベラーズ(ご存じですか?)五人のコーラスグループが唄っている『永遠に』というシングルがありまして、僕はこの曲の作曲をしました。林さんが現役を引退されることを知ったときに、とにかくいろんな気持ちで押し寄せて、まるで自分のことのように涙が溢れました。己の極限まで肉体を追い続ける、とにかくいろんな気持ちで押し寄せて、まるで自分のことのように涙が溢れていっばいでした。そして次のシーズン、林さんのいなき秩父宮で試合を観ていたら、「お疲れさま」の気持ちで、風になってフィールドを駆け抜けていくような気がしました。そのときふと、「あなたに風になってすべてを包んであげたい」という言葉とメロディが、僕のなかに浮かびました。そのときこの曲は、すごくいいものになるかも知れないという気持ちがありました。しかしまだその時点では、頭の中にしかなかったのです。何ヶ月か温めながら、ようやく他の部分を完成させました。そしてその当時、彼達とはそれ以前から曲づくりの合宿とかにこの曲を歌ってもらおうかと思いついて、彼達とはそれ以前から曲づくりの合宿とかでサポートしていたので、仮唄をレコーディングしました。サビを五人のコーラスでやると、圧倒的な力強さがあり、思っていた以上に上のものができあがり、次のシングルはこれという感じになりました。彼らもそのときデビューして数年、そろそろ売れなげなところからリスナーも増え、レコード会社の人間に半分本気で言われていたのが、僕の曲が選ばれたということ、嬉しい反面、結構プレッシャーでした。もしかすると彼らの運命を左右することになりかねませんから。でもそのなかに、僕は「この曲ならきつ」という気持ちもありました。そういううちに、本番の歌入れも終わり、一枚のシングルが完成しました。そして発売。裸一貫、タイアップなしの状態です。スタートしたのチャートは、それなりに伸びました。彼らにも僕にとっても、初めての「ヒット曲」が生まれたのです。ここで僕が言いたいのは、もし林さんというひとりの人間が存在しなかったら、この曲も生まれなかったし、彼らのプレイもなかったかも知れません。とにかくお礼が言いたかったです。林さんはいろんな人にとりだ、僕の感動や勇気を与えてくれました。僕もそれを受け取ったなかのひとりだ、僕のなかの背番号4は、いつまでも林さんただひとりです。本当にどうもありがとう。ごさいます。感謝を込めて。あなたの風になって

妹尾 武

て、日本の町並みや情緒がすごく好きなんですよ。勿論、神戸も好きですし、帰るべき港ですから。そして自分が興味を持った人ときどきどんっせッションしていきたいですね。

林 僕は妹尾くんの音楽からは、優しい気持ちを感じるね。お互い「詩」のある人生を歩もうな。



神戸バイオテクノロジー研究・人材育成センター！  
 神戸大学インキュベーションセンターが完成  
**先端・融合領域の研究と人材の育成。**  
**日本の生命科学の未来を拓く。**

関西の産学連携のもと、ポートアイランド第2期を中心に、高度医療技術の研究・開発拠点の整備が進む神戸医療産業都市構想。その中機能である中核機能であるトレーニングセンターとしての役目を果たす「神戸バイオテクノロジー研究・人材育成センター」・神戸大学インキュベーションセンター」。

神戸大学が中心となり、京都大学や大阪大学との共同研究を通じて、医療におけるベンチャー企業の育成を図る。



新たに誕生した神戸バイオテクノロジー研究・人材育成センター・神戸大学インキュベーションセンター



神戸大学発のベンチャー企業の創出をめざす



矢田神戸市長も期待がふくらむ

神戸医療産業都市構想の中核を担う先端医療センターを中心に、再生医療をはじめとする先端医療研究に取り組み関西の研究機関、企業、学が連携する知的クラスターの形成がポートアイランド第2期に進んでいる。

この「学」の中心となるのが、神戸大学をはじめとする京都大学、大阪大学の連携による共同研究。日本国内では大学間での連携や共同研究を行うことが稀であるといえるが、これらの既成概念を取り払い、3大学が共同研究を行うことで、医療に関する新たなビジネスを研究するために、神戸バイオテクノロジー研究・人材育成センター、神戸大学インキュベーションセンターが開設された。

ここでは、神戸大学の教員や学生の教育研究成果をもとに、新たな事業にチャレンジしようというベンチャー起業プロジェクトを育てるための役目を果たす。

3月26日には、これらの3施設の開設を前に、開所記念シンポジウムが開催された。



## 大学初のベンチャー企業の 創出をめざす

野上智行（神戸大学学長）

神戸バイオテックノロジー研究・人材育成センターでは、バイオテックノロジー分野における先端・融合領域の研究及び人材育成を、特定の研究領域や大学に限定されない新しい形で行います。神戸大学インキュベーションセンターは、大学初のベンチャー企業の創出を



開所記念シンポジウムが開催され、今後進むべき方向性を話し合った

目的としています。神戸市医療産業都市に進出している企業とも連携し、新産業創出による地域の活性化に貢献することとしています。これらの取り組みを通じて、神戸医療産業都市構想の推進に貢献し、さらには、学術研究の世界的な拠点を形成したいと考えます。



## わが国の生命科学の 未来を拓く中核施設

井村裕夫

（財）先端医療振興財団理事長

21世紀の生命科学にとって重要なことは、総合的アプローチをどのように進めるかということであり、20世紀の医学は還元主義に基づいて発展しました。生命現象から細胞へ、分子へ、更に遺伝子へと研究が進み、ついにヒトゲノムの全配列が明らかにされました。今世紀にはゲノムから出発して、タンパクへ、細胞へ、そして固体へと研究を進展させねばなりません。そのためには、ナノ科学を含む様々な新しい技術や情報の

処理が必要となってきます。そうした分野の人材をどのようにして養成するかが、喫緊の課題と言えますししょう。

このセンターは、こうした先端・融合領域の研究と人材の育成を目指して設置されました。神戸医療産業都市のみならず、わが国の生命科学の未来を拓く中核施設として、その発展を期待しています。



## 全国に先駆けた医療産業 都市のモデルケースに

高井義美

（大阪大学大学院医学系研究科教授）

基礎研究と臨床研究を融合させ、京都大、大阪大、神戸大の学生が共同で勉強することによって、医療の分野で新しい可能性が生まれると思います。この地は、三宮にも近く、ショッピングや食事をすること、研究者や学生にとって息抜きができるでしょう。研究者が訪れたいような、全国に先駆けた医療産業都市のモデルケースとして期待したい。

## 社会的緊急性の高い疾患 の病態・治療作用のモデル システムを



研究代表者／  
神戸大学大学院  
医学系研究科  
清野進教授

2025年には、20歳から79歳までの成人人口の内、7人に1人が糖尿病の予備軍であると言われて、今後も深刻な問題となることが予想されます。昨年でも740万人糖尿病患者の50パーセントが、治療を行っています。

我々は「代謝動態シミュレーションプロジェクト」を研究課題に、医学的、社会的緊急性の高い疾患



開所記念シンポジウムに出席した清野教授

（糖尿病、薬物誘発性心臓不整脈、気管支喘息など）の病態・治療薬作用のモデルシステムを作成し、疾患の革新的診断・予防法を開発します。

神戸バイオテクノロジー研究・人材育成センターは、本年度より異分野の領域の研究者が複数の大学から集い、以下のような先端融合領域の研究、人材育成を進めていく。

### 新しい糖尿病治療法 開発のための総合的研究



研究代表者／  
神戸大学大学院  
医学系研究科  
春日雅人教授

#### 概要

新しい糖尿病治療法開発のために①膵β細胞における情報伝達の解析、②中枢性食欲調整機構の解析、③脂肪細胞の発生・再生課程の解析、④糖尿病感受性遺伝子の同定、を主たる研究テーマとする。種々の分野の研究や各企業と協力・連携し、その研究成果を細胞治療

あるいは創薬などの臨床応用へ結実させる。

### 再生医療に用いる 材料合成と スキャンフォールドの作製



研究者代表／  
京都大学  
再生医学研究所  
岩田博夫教授

#### 概要

特に組織の再生と共に生体内で吸収されてなくなる材料の合成とそれを用いたスキャンドール（細胞を分化・培養させるための足場となる材料）の作成を行う。また、多様な工学分野の研究者と連携して、医学研究に用いることのできる研究機器の開発も行う。これらの研究を通じて、工学系研究者や学生と神戸医療産業都市に集まっている生物・医学系研究者との交流を促進する。

#### 人材育成

工学を主たる専門とし、生物を副専門とするようなバイオメディアカル分野で働ける人材を育成する。

